

街道の駅からの小さな旅

てくてくてくてくてくて

甲斐の国

第1駅 勝沼ぶどう郷

トム・ソーヤーになって冒険をした“トンネル遊歩道”  
“縁側カフェ”に染み込んでいた100年分の陽のぬくみ  
1300年のぶどう郷の歴史を語り継ぐ“ぶどう寺”  
歴史のあるぶどう郷には  
一つ一つの場所に物語が刻まれていた。



01

## 駅前広場

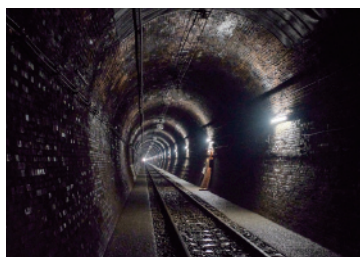
基六桜の並木が続く線路土手沿いの駅前広場。旧車両やスイッチボックスの基点跡などを観察しつつトンネル遊歩道へ。



02

## 大日影トンネル遊歩道

明治36年に造られたレンガ積みトンネル。ぶどうやワインの流通にも活躍した鉄道遺産の中は歩いても楽しめる。片道約30分。



03

トンネル  
ワインカーヴ

明治期建設の旧深沢トンネルを利用したユニークなワイン貯蔵庫。ワインの長期熟成に最適で約100万本を貯蔵可能。



04

沢楽の道・  
縁側カフェ

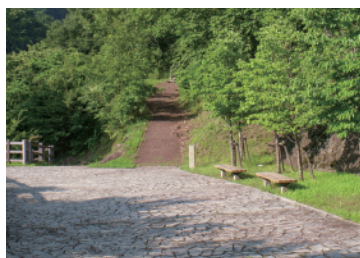
自然豊かな沢沿いの道に数軒の農家さんが休日限定で開く縁側カフェが点在。野菜直売や野たてなどお楽しみもさまざま。



05

## 柏尾古戦場跡

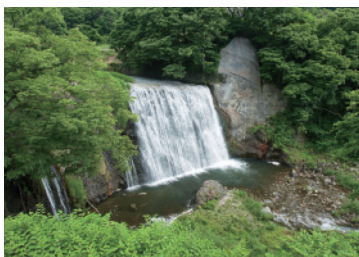
戊辰戦争の分かれ目となった歴史を刻む。柏尾坂は「勝沼柏尾の戦い」で旧幕府軍の最後の砦となった。



06

## 勝沼堰堤

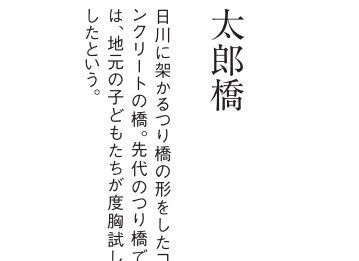
自然の地形を利用した見事な砂防で国の登録文化財に指定。別名は祇園の滝。堤下まで降りることができ。



07

大善寺  
(ぶどう寺・葡萄酒師)

奈良時代創建の古刹。甲州ぶどう発祥の地と伝わり、国宝・薬師堂のぶどうを手にした薬師如来像が有名。寺で醸造したワインもある。



09

## 勝沼ぶどうの丘

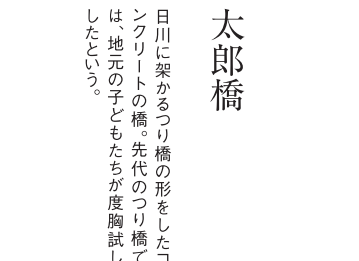
眼下にはぶどう郷。甲府盆地、さらに南アルプス連峰まで見渡せる。地下ワインカーヴでは200種類ほどが試飲できる。



08

## 太郎橋

日川に架かるつり橋の形をしたコンクリートの橋。先代のつり橋では、地元の子どもたちが度胸試しをしたという。



てくてく  
歩きの  
途中で...



ぶどう棚の間を抜ける道を歩くことが多く、ちょっとコースが心配になると、ついついぶどう棚の下で作業中のみなさんに声を掛けてしまいました。こっちが近道だよ、もう少しがんばって、とか、ぶどう郷に満ちる気兼ねのない雰囲気を楽しんだり、つい会話が弾みました。

# “やまじょう”さんの おすすめは、ひなたぼっこ

やまいち、やまじょう、やまさん、いりやまさ…、縁側カフェの農家さんの屋号は「やま」と付く家が多い。それだけ、どこも山深いのだ。裏山の林に棲むシカの鳴き声が頭上に響いて聞こえてくる。そこから、シカやサルの話で、ひとしきり盛り上がった。貴重なおひさまが当たる縁側に座ると、不思議なほど自然に、おしゃべりに花が咲いた。真冬ともなれば日照時間は、なんと3時間ほど。だから、この人はみんな、おひさまを、ありがたいと感じながら暮らしている。「ひなたぼっこが、一番のおすすめだよ」とご主人が教えてくれた。「もうすぐ冬がやってくる」と奥さんも、たくましく笑っていた。

懐かしい縁側で大事な蓄え物のごちそうをいただきたいしていると、なんだか、とつても温かい気持ちになった。

寒暖差によって、うま味がぎゅっと閉じ込められたホクのお芋の天ぷら。この季節ならではの「ごちそうだった。春は山菜、夏はすもも、冬はふるふき大根…その時あるものだけだから、なにが出るかは、その日のお楽しみ、とのことだった。

## 「沢楽の道・縁側カフェ」

山深い沢沿いの道に、数軒の農家さんが週末限定で縁側を開放。農家さんそれぞれのおもてなしに心温まる。

自家製の漬物や煮物、天ぷらなど、季節によって何が並ぶかも、一期一会のお楽しみ。

◎ 縁側カフェ 開店日などは要確認

☎ 0553(44)1502 事務局・佐藤(やまじょう)





### [ 縁側に座ると、花が咲く ]

母屋は昔ながらのお蚕農家さんの造り。築110年でも、どっしりと揺るがない。大きくて立派なお蔵からは、蓄えを大切に暮らす山里の春夏秋冬がしのばれた。ちょっと座布団をはずして座ってみて、とご主人にすすめられ、縁側に直接座ってみた。しっかりと地に足がついて、これ以上ない安定感。椅子より低めで、日本人にぴったり、座り疲れしない高さ。さっと立ち上がれもする。朝に一度足袋を履いたら一日脱がずに済ませる知恵があったと、縁側ひとつに込められた昔の日本人の暮らしの話に、また花が咲いた。